

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200123		
法人名	特定非営利活動法人 CSOおおいた		
事業所名	地域福祉支援センター フェリス千歳		
所在地	大分県豊後大野市千歳町前田1160番地		
自己評価作成日	平成27年3月7日	評価結果市町村受理日	平成27年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=4471200123&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 壱番館 1F		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①利用者の「個性」・「自己決定」・「選択の自由」などの意思を尊重し、望ましいホームでの生活が送れるように支援しています。
- ②職員は利用者の立場に立ち、考え、話し合いを重ねることにより、大切な家族の一員であることを踏まえた支援を提供しています。
- ③地域、ご家族、関係機関の協力を仰ぎ、利用者の方々にとって安心できる住まいとなるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部に在る平屋造り(2ユニット)の施設で法人資源との連携も図られています。利用者・家族の折々の思いの尊重を大切に、生活リハ・体操・レクや散歩による身心機能の持続や、利用者参加の献立(意向うかがい)・食作り(下ごしらえ)の営みより、食への期待感を抱ける姿への支援の様子が伺えるなど、残存能力の活用に努める中で、活動と憩いの場としての、生活空間に潤いと家庭的な雰囲気を楽しめる場を演出しています。利用者の身心状況・暮らしぶりより見える気づきの把握や、地域密着型施設の意義の留意と連携による進展的な営みにおいても、地域の中で生活する施設(家庭)の一人としての趣きと、有意義な生涯生活へ繋ぐケアへの取り組みの姿勢が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所の見やすい所に掲示し、日々実践に取り組んでいる。	理念を意識に添えたケアへの営みの様子が伺えます。地域の中で暮らす家庭的な施設において、集いの生活とその人らしい日々の楽しみ・和み・安心感の抱ける暮らしぶりを大切に、日常の支援に取り組んでいます。	個の職員の資質とチーム力の向上への着眼の意向が管理者より伺えます。全職員間での協議(行動目標など)の、毎年の理念の見つめ直しによる、支援の向上とチーム力のアップへの展望に期待します。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会費を納入し、回覧板等を回して頂いている。また、地域のお祭りに参加したり、地域の方から野菜を分けて頂いたりしている。	地域で生活する施設としての営みを大切に捉えており、自治区の役員・民生委員・消防団との情報交換より地区行事(清掃活動・祭りごと等)への参加・協力や、フェリス通信を介しての発信に努めています。日常的な関係づくりに取り組んでいます。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一年に4回施設新聞を作成し、地域の方々へ配布し、認知症の方への支援の方法や、委員会活動を通じてどんな事を行っているか等をお知らせしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者の意見を積極的に取り入れ、会議やミーティング等で話し合い、改善に努めている。	施設の状況や利用者の現状、経過(見直しや改善等)の報告が行われています。相互間の連携において、施設イベントとのタイアップによる開催や、参加者よりの発案への取り組みと実践への取り組みなど、活動的な相互交流に努めています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に意見交換を行っている。また、必要に応じて市役所に出向いたり電話等で意見を頂いている。	施設と行政の関係づくりの必要性を認識しており、市担当者等への訪問や電話相談による諸連絡の発信や行政機関からもアドバイス等も受けており、相互連携に努める様子が伺えます。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会に参加し、それを苑内研修にて全職員に反映できるよう努めている。	拘束の概念において、個の利用者の思いの尊重と安全面への取り組みにおける支援・対策等について、研修や会議での協議に努めています。日常生活から伺える状態の変化や気づきへの職員連係を視野に、実践に向けた支援に努めています。	個の職員の気づき(気配り・目配り)、情報の共有によるチームワークの更なる育成を視野に、利用者の尊厳・行動を抑制しない言葉かけへの留意・実践に繋ぐ支援への研修の取り組みに、期待が持たれます。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の研修会に参加し、定期的に職員間で話し合いの場を持ち、虐待への注意を払い、その防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、研修会資料の回覧をしている。また、業務マニュアルの熟読を促したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の見学を行って頂き、ご家族やご本人様の理解を得て契約を行っている。また、質問等にはいつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつも気軽に意見を出して頂けるような関係作りを行っている。また、ご家族にはサービスの質を向上させる為のアンケートを定期的に行っている。ご意見箱の設置も行っている。	家族との繋がりの導き(夏祭りとタイアップの家族懇談会・イベントへの案内・アンケート調査・利用料金の持参など)に取り組んでいます。相互間の交流を大切に、利用者・家族の今の思いの把握に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理会議、スタッフ会議、ミーティング等で意見交換を行っている。また、起案書により積極的な意見を取り入れている。	「起案書」の導入による新たな行事への立案や企画・アイディアの提案など、利用者への支援の向上や、業務改善による働き易さを考慮した体制づくりに取り組んでいます。面談(年1回)により、職員の意欲(目標)・意向の把握にも努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規則を基に就業環境の整備に努め、働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部、内部研修に参加し、室の向上に努めている。資格取得を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係機関の研修会に積極的に参加をし、随時情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時にスタッフ間で意見交換を行い、安心して生活できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にてコミュニケーションを取り、ご家族が安心して任せて頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様のニーズの把握を行い、必要であれば他のサービス提供機関とも連携して対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩との認識に立ち、家族の一員だという思いで介護に携わるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、利用者様の近況報告を文書でお知らせし、必要に応じて面会や外出、病院受診等に協力して頂けるような関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もご家族様の協力のもと自宅への帰宅や近隣への訪問、施設内での面会が自由に行えるよう支援をしている。	フェイスシートや、アセスメントから得られる気づきの情報を大切に、興味やお付き合い関係の把握に努める中で、馴染みの場所への訪問や人との継続的な繋がりの支援の様子が伺えます。電話での援助、思いの尊重と継続も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリや行事を通じて、関わり合いがもてるよう支援している。また、無理の無い付き合いができるよう見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時も、必要に応じて相談援助を行い、円滑にサービス移行ができるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や介助の場面で意向の把握に努め、意思表示が困難な利用者様に対してはご本人様の立場に立ち、ご家族様の意向も踏まえ、把握に努めている。	面会時の声かけ・便りの活用による暮らしぶりの伝達を介した交流への営みを大切に、また、家族の意向の把握や、利用者の思いのキヤッヂや行動から窺える気づきを支援の糧に、職員間での情報の共有を支援に繋ぐ姿が伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様や担当介護支援専門員等より、ご本人様の生活歴等を聴きとともに、情報提供書を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りやバイタルチェックで心身状態の把握に努めている。また、入居者様個々の生活リズムを大切にし、支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人様の希望や意向を聴いた上で、計画作成担当者と他のスタッフで話し合い、介護計画を作成している。	ケアプラン実施記録による実践状況の把握や、「認知症対応型共同生活介護計画・評価表」を用いた3ヶ月毎のモニタリングが行われています。家族・現場の意向も大切に、収集を計画の策定に取り入れており、職員への周知も図られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や、介護記録(カルテ)、ケアプランチェック表により、職員全員が情報を共有できるように努め、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズ等にもできるだけ応える事ができるよう臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らせるよう、運営推進会議等で意見交換を行っている。避難訓練や地区行事への参加、積極的なボランティア、研修、実習の受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1～2回の往診を受けている。また、希望に応じて適切な医療機関への受診支援を行っている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっています。利用者の病気の関係で、対応できる病院に変更しなくてはならない時には、家族に連絡、面談をし決めています。適切な医療機関への受診支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や協力機関の看護師と連携して、入居者様の心身の状況の変化に即対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医師や看護師、相談員等との連絡を密にし、入院中の状態把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看とり指針(マニュアル)を作成し、主治医やご家族様と十分な話し合いを行い、方針を決定している。	看取りについての一連の流れを職員も周知し、定期的に勉強会も行われています。利用者や家族の意向をふまえ、安心して最期が迎えられるよう取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	救命救急講習会を定期的に行っている。緊急時のデモンストレーションの研修会を行ったり、緊急連絡網、緊急対応マニュアルを整備しスタッフ会議等で徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災非常時対応マニュアルを整備し、年2回の消防防災訓練を行っている。災害対応マニュアル、緊急連絡網を整備し防災委員会を中心に徹底を図っている。また、防災訓練には地域の消防団の方々の積極的な参加を頂いている。	消防署や地元の消防団と連携をとり、避難訓練・消火器の使い方などの訓練を定期的に実施しています。夜間に職員間の通報訓練をされています。非常食の備蓄をし、年1回消費期限の点検をしています。	

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様それぞれの性格や生活歴に合わせた言葉かけや対応に努めている。また、介助に際しては無理強いしない様に努めている。	利用者全員を苗字で呼び、同姓の方はフルネームで呼ぶよう配慮されています。トイレ誘導なども利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけています。個人情報の漏洩についても勉強会をしています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がその方らしく生活が送れるよう、可能な限り自己決定を重視した支援を行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重しつつ、個々のペースに合わせた支援を行っています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の身だしなみについては、常に気付いて、日常的に配慮している。二ヶ月に一度の美容サービスも行っているが、行きつけの美容室等へも自由に行けるよう配慮している。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	団子汁の団子をこねて頂いたり、野菜の皮むきや餃子作り等楽しんで食事作りに参加を頂いている。また、個々の食事形態に合わせた調理をし、安全な状態で提供している。	食事の下ごしらえ等、利用者の出来ることと一緒にを行い、食事を一日の活動の一つにされています。利用者の体調に合わせ食事の形態を変更したり、とろみ剤を使用し安全に提供をする配慮をされています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックは毎食ごとに行い、体調の変化が無いか確認を行っている。食事や水分摂取量が少ない方には適宜援助を行っている。嚥下障害のある方はトロミ食を提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状態に応じた口腔ケアを行い、食物残渣が無いか確認を行っている。また、口腔ケアについての内部研修会を開催している。		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄状況を記録し、利用者様の排泄パターンを把握し、排泄の自立支援を行っている。	トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パット類も利用者にあったものを使用し、パットの当て方、使い方などの勉強会を行っています。トイレの誘導もさりげなく、目立たないよう、声かけがされています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれた食事の提供に努めるとともに、水分摂取を「促している。また、散歩や体操を行い超の働きが活発になるよう支援している。必要な方には、医師の指示により下剤を使用している。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっているが、利用者様が排泄物により汚染した際や、本人様より希望があった時などは、随時入浴を行い清潔保持に努めている。	入浴を拒む利用者には言葉かけの工夫や人を代えて対応するなど入浴支援がされています。入浴の順番もローテーションで行い入浴中も会話が多く、入浴を楽しむ支援がなされています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活パターンを重視し、リズムが壊れないよう休息して頂いている。また、定期的なシーツ交換と布団干しで、気持ちよく入眠して頂けるよう配慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携を図り、服薬管理を行っている。ケース記録に薬の情報をファイルし、すぐに確認できるようにしている。薬の変更があった時は全職員に周知徹底を図り、本人様の状態観察に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の力を発揮できるよう、生活リハビリ(洗濯物たたみや食事の下ごしらえ)を通して、楽しみを持って過ごせるよう支援している。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日にドライブやお花見への外出介助を行い、気分転換を図っている。また、ご本人様やご家族様からの要望があれば、外出や外泊をして頂いている。	車酔いする利用者がいるので、あまり遠出は出来ませんが季節ごとに近くへ出かけ、戸外でおやつを食べるなどの外出をされています。利用者・家族の希望があれば外出・外泊などで気分転換が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が管理ができる方には、ご家族と相談の上、お金を所持し管理して頂いているが、その際、トラブルにならないよう全職員が配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの依頼があれば、自由に電話を使用して頂いている。郵便物については居室までお持ちしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、壁紙を貼ったりして季節感を大切にしている。また、灯りは適度な明るさを提供し、空気清浄加湿器を設置し安心して生活できる空間を提供している。	フロアのソファを利用者の使いやすいよう配置され、季節の花や壁の飾りつけなど居心地よく過ごせるよう配慮されています。床のワックスがけも2か月に1度されていて清潔に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファーを設置し、利用者様同士コミュニケーションがとれるよう配慮している。また、一人の時間がとれるよう常に気遣いを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、なじみの品物をできるだけ持参して頂くようお伝えしている。また居室がご本人様の安心できる生活空間になるよう配慮している。	箪笥や仏壇など使い慣れたものが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう環境作がされています。居室のポータブルトイレにはカバーをかけ見た目にも配慮し、気持ちよく過ごせるよう工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋でバリアフリー設計であり、トイレや居室の位置が判り易いよう工夫をしている。		